

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2970600397		
法人名	有限会社 おいていか		
事業所名	グループホーム ちゃんて		
所在地	奈良県桜井市大福233番地の16		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2970600397-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2970600397-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成28年12月2日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

四季折々の行事やレクリエーションに力を入れており、スタッフや御家族様、地域の方やボランティアの方々のお力をお借りして、様々な事にチャレンジし、また、食事や洗濯物に関しても「利用者様と共に」を大切に日々送っています。利用者様の状態が日々変わる中、力を合わせて「安心と安全、楽しい暮らし」を追及し続けております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

会社名「おいていか」とは、アメリカ原住民の言葉で「勇気・前進」の意味、グループホーム名「ちゃんて」とは、「家族」「ひとつの大切な集まり」という意味です。代表者・施設長・管理者は、職員と共に日々のケアにあたり、職員が笑顔で取り組まなければ利用者は笑顔にならないという信念を持ち地域の中で利用者の「安心、安全、楽しい暮らし」に向けて取り組んでいる。医療面では、すぐ近くの診療所と24時間連携体制ができており、親身で手厚い見守りがあり安心である。利用者は、職員手作りの料理を食べ、天気の良い日に散歩に出かけ、希望に合わせて富士山、薬師寺、足湯や介護風呂がある姫石の湯温泉にも出掛けており、楽しいいっぱいグループホームである。

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員は、事業所理念を基に介護支援を行う。同時に、スタッフで作上げた独自の「安全行動指針」に基づいた行動をとる	「人間愛により結ばれ生まれる敬愛と親愛を大切に個性をいかして介護支援する」を理念に、職員が笑顔で仕事に取り組まなければ利用者は笑顔にならないという信念を持ち地域の中で利用者の「安心、安全、楽しい暮らし」に向けて取り組んでいる。理念の実行に向けて「安全行動指針」を毎朝唱和し共有している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スタッフと御利用者様は、近隣散策時に近隣の方との挨拶を日課とし、施設内行事の納涼会、クリスマス会へは、地域の方に参加頂いている。お祭りへの参加や地域ボランティアの活用等、楽しい時間の共有を行う。	自治会に加入し地区の秋祭りではゴミ拾いのお手伝いをしたり、中学校の吹奏楽の演奏会に出かける等地域と交流している。事業所主催の行事に地域の方をお誘いしたり、生け花や尺八などボランティアの方の訪問もある。近所の方が事業所玄関のお花の手入れを担ってくれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域より依頼を受けて認知症の講習会を開いた実績がある		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて地域の参加出来そうな行事を教えて頂き御利用者様と参加している	運営推進会議は納涼会やクリスマス会などに絡めて地域役員、民生委員、家族代表の参加を得て年3回開催している。市職員や地域包括支援センター職員に案内を出しているが参加が少ない。	テーマを設けて勉強会を兼ね合わせたり、避難訓練と絡めて開催するなど内容や日時、参加者を検討して、年6回の運営推進会議開催に向けて取り組まれることを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広報誌と共に毎月作成しているスタッフからの手紙を郵送させて頂いている。運営推進会議に出席いただき、現状報告や相談等のお話が出来た。	生活保護者の受け入れもあり生活保護課の職員の訪問もあり現状報告している。「ターミナルケアの対応」について話し合われた運営推進会議のおりには、高齢福祉課、生活保護課職員の参加を得た。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りが常に出る状況を作る(スタッフの人員配置含め)が安全な身体拘束ゼロ活動だとする(安全行動指針を基にスタッフ間声かけ) 施設内研修	最近地域に不穏な事件があり安全上施錠に至ったが、利用者が外に出たいときは職員と散歩に出かけている。家族の同意を得た上で、車いすですべての作業をできるようにとベルトをしている利用者がある。また居室には夜間利用者の様子を把握するためカメラが設置されている。	安全対策のため各居室にカメラを設置すると重要事項説明書に誦い家族に同意を得て、利用者が望まなければカメラにカバーをすると伝えているが、利用者には抑圧感を与えていないか、見守りをカメラに頼っていないか等を職員全員で繰り返し話し合われることを期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の社内研修は12回あり、その中で虐待防止の研修がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の社内研修は12回あり、その中で権利擁護の社内研修がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	どうしても時、御自宅まで行きお話をさせていただいた。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、御家族様代表の意見も反映している。ケアプラン作成時に、面会や意見意向確認。	3ヶ月に1回家族アンケートを実施している。今年6月、利用者の富士山に行きたいという希望から利用者、家族の参加を募り事業所全体での旅行が実現した。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティングを毎月実施して「安全行動指針」実践状況を全員で自主点検している。	毎月1回全員参加の職員会議があり意見を聞く機会を設けている。行事やリクリエーションの提案は、職員の意見を率先して取り上げ計画に反映している。代表者・施設長・管理者は職員と一緒に日々のケアをしており、コミュニケーションを図るよう心掛けている。	外部評価の自己評価は、施設長が作成されているが職員全員で振り返りまとめられることを期待する。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの誕生日プレゼントやイベントでの最優秀パフォーマーには、社長より食事の御招待。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月何らかの社内研修と適任者への社外研修参加等。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最寄りの同業者同士、イベントの見学や道具の貸し借りをやっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居頂く際には御家族を含め、しっかりと話し合いの席をもうける。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居頂く際には御家族を含め、しっかりと話し合いの席をもうける。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際にグループホームでのサービスがご本人に適しているのか、お話し入所の段階で互いの意見交換を行う。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や新聞たたみ、室内のデコレーション等、共に作業する。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様の面会時間帯などはなく、いつでもお越しいただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期受診は馴染みの病院をそのまま受診いただいている。御友人の方にも気軽にお越しいただける環境作りを行う為、手紙、広報誌の配布を行っている。施設内イベントには、積極的に呼びかけをさせて頂いている。	家族が訪問しやすいようにと24時間訪問を受けしており、毎日面会に来られる家族もある。菩提寺の住職や友人の訪問もある。行政に働きかけ疎遠になっていた親族を探し出し交流が叶えられた方がいる。自分の畑に出掛ける利用者もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士の助け合いをスタッフが見守る形をとっている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルケア終了後も交流がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアカンファレンスを毎月見直す点で、本人本位に検討する機会が多々ある。	畑作業をしたい利用者には、車いすになっても畑に行き工夫して野菜作りをしてもらっている。趣味の編み物を楽しむ人もいる。職員が困った場合でも、まずは利用者に聞くことに戻り本人本位に検討している。利用者のつづきや職員の気づきを毎日の個人記録に書き留め活用に繋げると直よいと思われる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居頂く際には御家族を含め、しっかりと話し合いの席をもうける。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の回覧と業務日誌により、スタッフ全員が共通認識を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師、利用者様と家族様、施設長、担当職員とケアマネージャーとで介護計画を検討し、職員全体で支援している。	家族や利用者から趣味や希望を聞き取り介護計画を作成している。独居で情報がない利用者も市担当課や職員が話し合い介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の回覧と業務日誌により、スタッフ全員が共通認識を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様の送り迎えや御利用者様の畑に同行し、農作物を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の秋祭りやバザー、カラオケ大会などに参加する。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は馴染みの病院をそのまま受診いただいている。	内科受診は、利用者馴染みのかかりつけ医が事業所の協力医かを入居時に選択できる。現在は全員事業所の協力医を受診している。協力医の検診は月2回あり、24時間連携体制が整っている。歯科、精神科、皮膚科とも往診してもらえる体制がある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護にきて頂き、スタッフに役立つ情報、知識をご伝授頂く。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の診療所の看護師、医師にはとてもお世話になっている。良い関係を持たせて頂いている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取り連携体制についての同意書」に基づき協力医、訪問看護師と職員との連携を円滑にしている。協力医に対する全幅の信頼を職員は実践行動で応えている。	入居時にターミナルケアができることを説明している。協力医、訪問看護師と24時間連携し昨年は2名の方を見送った。利用者家族も数日泊まり込んで最期をともに看取った。葬儀に参列後職員で話し合いグリーフケア(悲しみからの回復)も行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修年間スケジュールに組み込まれており、定期的に訓練を行っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急通報措置、災害緊急時の地域に向けてサイレンが取り付けられている。地元消防署による消火、避難訓練を実施している。出火の原因になるガス使用時の注意を徹底している。	年に2回避難訓練を全員参加で行っている。今年6月にスプリンクラーを設置した。近隣との協力体制があり、西隣の駐車場が避難場所となっている。20時以降は、職員にガスの使用を禁止しリスク回避している。夜間想定避難訓練をすると直よいと思われる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の社内研修を行っている。	入浴や更衣時のプライバシーを取り入れて研修を行った。利用者への言葉使いには注意を払い丁寧に優しく接している。居室のカメラについては、プライバシーの面からも職員全員での話し合いが望まれる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは利用者様本位で日常生活を送って頂けるように声かけには注意を払っている。本人の意思を引き出すのも介護技術としてミーティングで技術向上を図る。又、それら希望を出来る限り実施実践行う。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のサービスの利用として、散歩、外出をとっており、散歩時のコミュニケーションより、ご本人の今日の目標や希望についてお話しする。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択を行える会話や、おしゃれに関する会話から、身だしなみへの意識を維持継続出来る様サポートする。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一時間前を目安に、提供させていただくお食事メニューの発表から皆様と会話を通して食への関心を深めております。その他、買い物レクや調理のお手伝いをお願いするなど。	利用者は調理の下準備を手伝い、三食手作りの料理を職員と一緒に食している。気候の良い日には、ウッドデッキでバーベキューやたこ焼き、焼き鳥をみんなで楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量を毎日調べている。食事量、状態など出来る限り一人一人に応じている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアはゆったりと時間をとり、社内研修で歯科衛生士の講義を職員が受ける機会を設けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	施設の方針は「出来る限りオムツの使用をしない」である。口頭でのトイレ誘導もそれぞれに行い、失敗を防いでいる。	排泄パターンをチェックし、利用者の排泄サインを見逃さないようにトイレ誘導することで、昼間リハビリパンツから布パンツになった利用者がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事栄養面への工夫、定期的な水分補給を心掛け、出来る限り薬に頼らないで済むように、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、時間は決まっておらず湯加減など、出来る限りの範囲で御利用者様の好みに合している。四季に応じて入浴時間を変え、体調管理に努める	入浴は週に2～3日で、寒い時期には、就寝前に入浴してゆっくり温まってもらうように配慮している。車いすの方も2人介助で湯船に浸かっている。希望により同性介助にも応じ、嫌がる人には声かけを工夫するなど臨機応変に対応している。温泉に出かけたこともある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者様に応じて、お昼寝なども取り入れている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは服薬に対して細心の注意を払い、クロスチェックも行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑リーダーや洗濯物リーダーなど、ご利用者にやりがいを感じていただける役割を担っていただき、実践されるのをサポートする。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お出かけでは、遠方のお阪や富士山まで出かける事もある。いずれもご利用者の希望をスタッフが実現出来るようサポートを行う。	天気の良い日は散歩に出かけ、四季折々に花見や紅葉狩りにも出かけている。利用者の希望に合わせて遠いところでは富士山へ旅行したり、薬師寺、墓参り、畑、図書館、足湯や介護風呂がある姫石の湯温泉などに出掛け楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の保持はしていない		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケースによるが、御家族様と電話でお話して頂いたり、遠方の御家族様の手紙拝読支援を行う。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に応じたカーテンやすだれを使用し、家庭的な対応であるが、温度、光の調節を行っている。ホールには、四季の飾り。デッキテラスでのくつろぎ。	玄関うちは、スロープが付き上がれるようになっている。リビングを囲むように居室がありカウンター越しのキッチンからは調理の匂いが漂ってくる。利用者の散歩時は、窓を開け放ち空気の入れ替えをしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やデッキテラスで一人の時間を過ごして頂ける(見守りが不必要な場合)		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、以前使われていた家具等を用意して頂き、生活の色を残して頂く。	居室は、事業所備え付けの無料のベッドと布団、持ち込んだ筆筒が置かれスッキリと整えられている。目覚まし時計、ぬいぐるみ、本、写真を飾っている部屋もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面所の表記やスタッフが見守りしやすい建物構造を作っている為、極力見守り支援を心掛ける。		